

S E R I
Shizuoka Economic Research Institute

12

DECEMBER 2009
No.544

まんすりー

「特集」

企業収益に直結する 省エネ対策

「財界人に訊く」

丸富製紙(株) 代表取締役会長 佐野 廣彦 氏

「調査01」

ものづくりの楽しみ伝え、市場拡大狙うプラモデル業界

「調査02」


交通系 ICカードを用いた地域活性化の可能性を探る

「Regular」

- 企業紹介／(株)東海ヒット
- 経営茶房／今だから「5S」で利益の出る体質にする
- 海外レポート／ブラッセル



務時間を午前から午後にシフトさせ、納期のズレについては営業部門が取引先に対して粘り強い折衝を重ねることで了解を取りつけた。



▲電力管理装置（左）と付属モニター（右）
蓄積したデータで電力使用量の分析もできる

＜類似事例③＞ テナント企業と協力しながら進めるビルでの省エネ

東京都港区で黒龍芝公園ビルというテナントビルを経営する(株)黒龍堂は、竣工^{しんこう}から25年が経過したビルの大規模リニューアルで空調設備や照明設備を更新。改修後もテナント企業と協力しながら省エネを進めたことが評価され、地球温暖化対策に優れたビルとして東京都と経済産業省から表彰を受けている。

テナントビルでの省エネは入居企業の意向に左右されるが、同社では、省エネ意欲を高める施策を効果的に実施している。具体的には、省エネ化によって削減したエネルギー費を電気代の値下げで還元したり、入居企業が自社の省エネ事例を他のテナントに披露して情報共有ができる場を設けた。最近では、地球環境に優しいビルとしての認知度も高まっており、周辺に新築ビルがあるにもかかわらず入居率は100%を維持。改正省エネ法の完全施行を見据えたと思われるテナント企業から、入居の問い合わせも増えている。